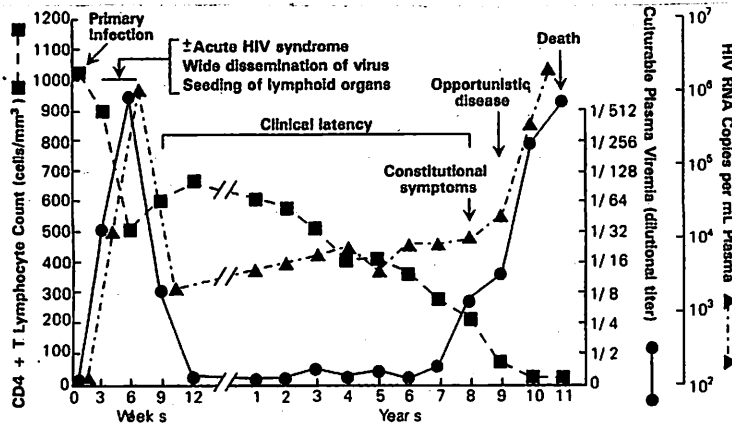


抗HIV薬による治療を行わなかった場合のHIV感染の自然経過は3つの病期に分類される。



■ FIGURE 1-1: Natural history of HIV infection in an average patient without antiretroviral therapy from the time of HIV transmission to death at 10-11 years.

血中ウイルス量→HIV感染症の進行速度を示す, CD4陽性リンパ球数→感染者の免疫状態を示す

■感染初期(急性期)

初感染したHIVは急激に増殖し、急性HIV症候群、広範囲に及ぶウイルスの拡散、リンパ臓器への伝播が起こる。患者は以下の症状を訴えることがあり、数週間で消失する。

熱-96%	リンパ節腫大-74%	咽頭痛-70%	発疹-70%	筋肉痛-54%	下痢-32%
頭痛-32%	嘔気・嘔吐-27%	肝脾腫-14%	体重減少-13%	神経症状-12%	鷓口瘡-12%

Primary HIV infection: Signs and Symptoms (Department of Health and Human Services [DHHS] Guidelines [Ann Intern Med 2002;137:381])

■無症候期

急性症状消失後もウイルスは増殖を繰り返しているが、宿主の免疫応答により症状の無い平衡状態が長時間続くことが多く、平均すると8年ほどである。

■AIDS発症期

ウイルスの増殖と宿主の免疫応答による平衡状態もやがて破綻し、血中ウイルス量(HIV RNA量)が増加し、CD4陽性リンパ球数も減少し免疫不全状態となって、AIDSを発症する。AIDSはHIV感染症の診断を満たしており、日本では23の指標疾患(真菌症、原虫感染症、細菌感染症、ウイルス感染症、その他)の1つ以上が明らかに認められる場合に診断される。サーベイランスのために作られた基準ではあるが、指標疾患の定義も国により異なり、国際的なサーベイランスとして比較することはできない。また、年代ごとに疾患の変更追加もなされているため経時的な比較もできない。HAART導入により、HIVに対する加療がウイルス量やCD4数でうまくモニターできるようになり、AIDS発症患者を統計する意義は低くなっている。

Reference

HIV感染症「治療の手引き」<第12版> HIV感染症治療研究所 4-29
 2009-2010 Medical Management of HIV Infection Johns Hopkins University School of Medicine 1-5
 感染症999の謎 編集 岩田健太郎 355-390
 抗菌薬考え方、使い方 ver.2 岩田健太郎 宮入烈 中外医学社 409-414
 INFECTIOUS DISEASES seventh edition volume 2 1635-1637